

改憲へ流れ加速

「なし崩し」懸念の声

国民投票法案可決

「改憲への第一歩だ」「九条を守って」。国民投票法案が衆院憲法調査特別委員会でも可決された十二日、県内で不安の声が広がった。一方で、改憲に賛意を示す県民も。護憲団体は「このまま、政府主導でなし崩しに改憲へと進められていくのか」と懸念を示した。

(一面参照)

県内

法案が可決された同日夕、那覇市寄宮の与儀公園で「九条の碑」の前を歩いていた同市の無職男性へは「沖縄戦では私を除く一家六人全員を失った。戦争は人殺しだ。九条を守って」と訴えた。

「沖縄・女性九条の会」の共同代表を務める真境名光弁護士は「国会は改憲へつながらずはしこを登り始めた」と危機感を抱く。「政府は『憲法改正は良いこと』という雰囲気をつくり出し、なし崩しに改憲を進め、国民もそれに乗せられている」と話し、「九条が変

えられ、命の危険にさらされるのは自分や家族だ」ということを一人でも多くに知らせるしかない」と決意を新たにしていた。

高まらぬ関心 政府強行

県外

多数。米国とともに戦争をしよとする野党の野望を砕こう」とあいさつ。

憲法改正手続きを定める国民投票法案が衆院憲法調査特別委員会でも可決された十二日夜、同法案に反対する各地の市民団体が東京都千代田区の日比谷野外音楽堂に集まり、「憲法の改悪反対」「強行採決に抗議する」などと怒りの声を上げた。

主催した「許すな！憲法改悪・市民連絡会」事務局の高田健さんが冒頭「憲法九条を変えるな」の声を国民の圧倒的



憲法9条の条文を記した「九条の碑」の前を通り過ぎる子どもたち
=12日、那覇市・与儀公園

参加者はこの後、「改憲手続き法案反対」などとシュプレヒコールを上げながら、国会までデモ行進した。